

第2回シグマ委員会議事録

日時	昭和44年7月18日(金)	11:00~18:00
場所	(東京)機械振興会館	(第6会議室)
出席者	百田, 西村, 五十嵐, 中村, 中嶋, 塚田, 金森, 更田, 坂田, 飯島, 坂本, 桂木, 森田, 白井(小林代理), 片瀬, 大田, 片岡, 能沢, 大野, 鈴木,	
配布資料	<ol style="list-style-type: none">1. 第1回シグマ研究, 専門委員会議事録2. シグマ研究委員会幹事会議事メモ3. 遮蔽実験研究専門委員会遮蔽定数小委員会第3, 4, 5回会合議事録及び資料4. Recommendation to the Director General IAEA on Nuclear Structure Data Compilation.5. Second International Conference on Nuclear Data	
議題	<ol style="list-style-type: none">1. 前回議事録確認2. シールド専門委員会報告3. イスプラ会議報告4. INDC 第2回会議報告5. 45年度所内認可予算報告6. 各専門部会報告7. SCISRS-II8. 基本方針討議9. その他	

議 事

1. 前回議事録確認

議事録の訂正次の通り。

(準備会議事録)

P. 4 13行 KFK-1000→KFK-1,000

(委員会議事録)

誤 正

P. 6 9行 44年度は従来通り → 従来通り

P. 2 5行 観迎 → 歓迎

" 10行 変更して更めて, → 変更して, 改めて

P. 3 11行 Te(E)等) → , Tl(E)等)

" 14行 機能 → 機能

" 26行 (n, r)²³⁸Uの評価

→ (n, r), ²³⁸U(n, n^o)の評価

27行 Review. Interpretation

→ Review, Interpretation.

2. シールド専門委員会報告(片岡)

配布資料の遮蔽定数小委員会第3, 4, 5回会合議事録を基に今までの進行状態を説明する。

現存する各種の Data file には、何かと使い難い点があるので新たな file を作る訳だが、その file の format としては ESDF (仮称) を採用し、更に検討を加えて、完全なものに近づける。シールドデータとしては広い範囲 (n と r と荷電粒子) のものを入れられる様にするが、予算人員の関係上炉に関するシールド・データを中心に file していく。

a. 荷電粒子を入れる理由は? n と r が第1だが、容器としては

加速器、検出器に関連して広い範囲を入れられるようにしておく。

3. イスプラ会議報告 (桂木)

去る5月13, 14日にパリで行なわれた ENEA CPL の運営委員会と16日にはカールスルーエを19, 20日にはウィンフリスを訪問した模様を報告した。

なお、桂木委員のこの議題に関する報告が JNDC ニュース1611 の P22~24 と、JAERI-memo3585 に書かれているので参照されたい。

4. INDC第2回会議報告 (百田)

去る6月2日から6日までアメリカのBNLで行なわれた IAEA 国際核データ委員会 (INDC) 第2回会議の模様の報告。

詳細は JNDC ニュース1611 の P. 18~22 を参照されたい。

5. 45年度所内認可予算報告 (鈴木)

		申請	査定
計 算 費	X-section理論計算	1100	850
	数値データ検索	900	750
	X-sectionライブラリー作成	1000	400
運 営 費		600	0

(単位 万円)

復活折衝は認められなかった。

当委員会で考えている核データセンターの人員の充足計画は次の通りである。

	45年	46年	47年	48年
核データファイル作成	4人	7人	9人	11人
炉定数ライブラリー作成	3	5	7	9
情報交換業務(事務)	(2)	3	4	5
計	7(2)	15	20	25

() 中はアルバイトの数

核データセンター設立の話がスムーズに行かない原因としては、外部の支援体制が不十分であり、国際協力の点等からその必要性を力説している。

坂田 予算要求と人員要求の関連でセンターの構想は変わっていないのか？

塚田 核データセンターの構想は以前と変わっているか？

百田 変わっていない。

鈴木 核データセンターは情報交換が主になり、シグマ委員会は評価もやるが可渡的段階のものである。

塚田 もう少し討論の必要がある。

坂田 上部はシグマ委員会をどう理解しているのか？

鈴木 「現存するシグマ委員会は核データの評価、炉定数の作成を業務としているが、体制が不十分であるため核データセンターを作って欲しい」と説明してある。

森田 核データセンターは委員会の「核」になるのかどうか？

百田 25人のセンターが出来たら working group は解消するが、委員会はセンターの活動を誘導する形になるだろう。

CSBWG の様な working group が一時的に出来ることはあるだろう。

大野 45年度の予算の構想は核データ研究室で作ったのか？

鈴木 従来からある構想を核データ研究室でわかり易くしただけである。

坂田 一昨年各メーカーに出したサポート依頼について説明して欲しい。

鈴木 核データセンターは出来なかったが、その代り核データ研究室が出来たことを報告し今後の目標を述べた礼状を出すことを努力したが果さなかった。理事長が変わったことなどが、つまづきの原因だろう。

6. 各専門部会報告

○ 炉定数専門部会

1. 43年から始めた炉定数の作成、評価の作業は、今自分達で作った定数が使えるかどうか最後のテスト中である。特にfast reactor のデータを集めている。
2. Thermal F.P. working group を開いている。これも最終段階に入っている。
3. Thermal cross section の評価はその手順を検討中
4. (炉定数セット ENDF/B) ^{に基づいて} を修正したものを作成し今虫さがしをしている。
5. ENDF/B, UK-Data の plotting をしている。

なお、8月中旬に専門部会を開き、今後の方針を決める予定である。

1. に関して委員会の仕事の範囲外になるのではないか。我々は炉定数を作るだけで、Exp と比較することまではやる必要がないのではないかとの意見が出された。これに対して、炉定数を使ってもらうためにはどうしても評価は必要であり、Integral check をする必要があるという答があった。

○ (評価+情報) 合同専門部会報告 (飯島)

6月13日東海で第1回の会合が開かれ今後の方針が決定された。

1. 日本の evaluated data file を作ることを目標とする。
2. 3つの機能が考えられる。
 - a. 情報の消化と分配 (distribution)
 - b. 炉定数専門部会への quick response
 - c. 核データ収集、格納、利用のシステム

組織は次の4つの working group を主体として運営される。

() 中は世話人

- I. Review (五十嵐)
- II. 熱中性子散乱 (中原)

Ⅲ. Fast F.P. (飯島)

Ⅳ. 情報検索 (更田)

各 working group の仕事の内容についてもくわしく報告があった。

なお、文献収集に関する working group を作るかどうか6月13日には明らかにならなかったが、6月19日にこれに関する検討会を持ち、独立した working group を作らないことで意見の一致をみている。これらの事情は坂本委員から詳しい説明があった。INIS等外部との問題点も多く、また仕事の内容からみて人手も足りないので、かなり困難な問題である。

(8の議題でもう一度議論する)

7. 委員長アナウンス

1. 本年度の研究会については、桂木氏の方で検討することになっている。
2. ^AENDCが10月上旬にある。プログレス、レポートおよびリクエスト・リストの作業の御協力をお願いしたい。
3. 専門部会委員について
 - 中島 豊(原研)氏が辞退したいとのこと。
 - 菊池 (東大)氏がアルゴンヌに行くので、その後に助手の末広氏をオブザーバーにして欲しいという要請が安氏からあった。
この件は承認された。
 - 綾尾(原研)氏が9月中頃に外国に行くので東工大の角谷さんを専門委員にして欲しい。(飯島氏)
事務的に可能なら入れることにする。
4. CINDA 69の送り先の改訂を検討する。
5. CCDNのNews letter №8 (SICSRISのlist),

№9 (evaluation の list) が刊行された。

8. 基本方針の討議

②坂田 合同専門委員会の working group 中の Review¹について説明をして欲しい。

飯島 将来 evaluation につながる。変速炉核種に限定している。
BNLの線は interpretation である。

①五十嵐 保留金の一部を SCISRS の plot の方にまわして欲しい。
(多) 他の専門部会からの要求も聞いて他の機会に決めるべきだ。

③大野 合同専門委員でありながら working group のどれにも入っていない人がいる。

百田 どこかに入るべきだ。おいおい修正していこう。

④ 文献収集上の問題について討論する。

十分な結論を出すことが出来なかったが、外部との意見の交換をし、もっと具体的な案を次回の委員会に提出してもらうことになった。

この他にも問題が提出され、次回の議題として次のものが上げられた。

1. SCISRS-II についての報告 (更田)

2. 炉定数の評価には、核物理的評価と、炉物理的評価の2つがある。炉物理的評価はこの委員会の仕事になるのか?

3. 文献収集の問題

4. 幹事会議事メモの最後にあげられてある基本方針についての問題点の討議。

5. 核データセンターとシグマ委員会の各専門部会、および核データ研究室の間の相互関係を明確にする。

6. 保留金について、各専門部会での希望を8月15日までに申し出ること。

7. mechanization of evaluation について、能沢委員と西村委員で報告する。
9. 次回は 8 月下旬に開く。詳しい日時は幹事会に任せる。